

令和6年度 総合的な学習の時間 全体計画 江戸川区立南小岩小学校

名称: いちようタイム

学校の教育目標	・よく考える子
	・思いやりのある子
	・たくましい子

総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の総合的な学習の時間の目標

「心豊かに、生き生きと自らの課題に取り組む児童の育成」

- 1 環境・国際理解・情報・福祉・自分自身に関わることなどの課題に主体的に取り組む。
- 2 自ら課題を見だし、身近な人・もの等に関わったり、目的にあった方法で調べたりして、自分なりの考えをもつことができる。
- 3 課題を設定する力、情報収集・整理分析する力、表現する力を身に付けることができる。
- 4 課題解決に主体的に取り組む、友だちと協力したり、自分と比較したりして活動や考えを発展させる。
- 5 調べたことをもとに主体的に行動したり、自分自身を振り返ったりしてよりよく生きようとする。

育てようとする資質や能力

〈知識及び技能〉

第3・4学年	第5・6学年
地域の自然や環境、福祉など、身近な生活の中から課題を見付け、考えをもつことができる。 人やものとかかわる体験をしたり、資料などから探して調べたりする中で、自然の素晴らしさや地域の人々の工夫が分かる。	自ら課題を見付け、目的にあった情報を探し、課題を追求することができる。 地域の環境や食についての課題を理解し、それに携わる人々の願いがわかる。 様々な人と交流し、多様な物の考え方や生き方があることに気付く。

〈思考力、判断力、表現力等〉

第3・4学年	第5・6学年
課題の解決に向けて見通しをもって計画する。 事実を比較・分類するなどして、共通点や相違点を見付ける。 人に分かりやすく効果的に表現し、伝える。	解決方法や手順を考え、見通しをもって課題を解決する。 事実を確認したり、整理した情報を関連付けたりしながら考察する。 自分の考えを工夫して効果的に表現し、人に分かりやすく伝える。

〈学びに向かう力、人間性等〉

第3・4学年	第5・6学年
友達と協力して課題解決しようとする。 地域の人・もの・ことに積極的にに関わり、調べたことをもとに自分の生活に生かそうとする。	課題意識をもって、自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組もうとする。 友達と協働して探究活動に取り組もうとする。 探究活動を通して、自分にできることを見付けようとする。

内容	学習対象	学習事項
第3学年	地域や学校の特徴 情報(PC操作・メディアリテラシー・プログラミング)	学校や地域に対する愛着心と身近な生き物に対する自分との関わり パソコンの基本操作、インターネットの活用、プログラミング
第4学年	日本や地域の伝統文化 情報(PC操作・メディアリテラシー・プログラミング)	伝統文化に対する関心、守り受け継ぐために自分たちにできること パソコンの基本操作、インターネットの活用、プログラミング
第5学年	環境と自然 情報(PC操作・メディアリテラシー・プログラミング)	環境問題への関心・興味、自分たちにできることの実践 プレゼンテーションアプリの活用、インターネットの活用、プログラミング
第6学年	地域の特徴と身近な食生活 自己の将来 情報(PC操作・メディアリテラシー・プログラミング)	地域の特徴や食材についての理解、地産地消や食生活の見直し 身近な大人や働く人のかかわり、自分の成長と未来 プレゼンテーションアプリの活用、インターネットの活用、プログラミング

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
○3年生は地域、4年生は伝統文化、5年生は環境、6年生は食を主なテーマとする。 ○地域の特性に合わせ、人・もの・ことを生かした課題解決学習を行う。 ○探究結果を表現する場を設定する。	○児童の実態に即して、課題を見付けられるようにする。 ○講師による講演会、地域の人から聞くなどの体験学習を重視する。また、社会や理科など教科を発展させた指導をする。 ○思考ツールなどを効果的に用いることで、協働的な学習活動ができるようにする。 ○調べた成果を自分の生活に生かせるよう支援する。	○全校指導体制として指導にあたる。 ○地域の人材(商店街、本校卒業生、地域ボランティア、保護者)、施設の利用(福祉施設見学活動など)を、効果的に取り入れながら、学年中心に指導していく。 ○単元は、プログラミングなどの情報単元も含め、3単元程度とする。	○観点別学習状況を把握するための評価規準の設定(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度) ○指導と評価の一体化の充実(単元のねらいとの関わり) ○ふりかえり等を生かした、個人内評価を重視する。